

# 若い力で矢板を盛り上げる

今年のおんどんまつりでは、チェンソーカービングなどの各種イベントや、市民の皆さんから募集した「家族の絆」をテーマにした写真のスライドショーなどが大変好評だった。

これらの新しい企画を立案・運営した「やもり倶楽部」の皆さんに伺った。

## ■やもり倶楽部とは

矢板を盛り上げる倶楽部を略して『やもり倶楽部』（タモリ倶楽部をもじって）と呼んでいる。

中心メンバーは農家の後継者、大工、林業、農協職員など矢板に残って働いている二十代から三十



代で構成。結成から三年、餅つきなどで各種イベントに参加したり、自分にプラスになるような勉強もしている。腹を割って何でも言い合える仲間。ぜひ矢板に暮らすさまざまな職種の若い人に参加して欲しい。

## ■あんどんまつり初参加

今回、縁あって、やいたの夏実行委員会に呼ばれ、企画段階から参加。そこで、あんどんまつりの中心的な役割を任せられた。最初はこんなことできるのかなど不安だったが、道を開けた

めには必要かなど覚悟を決めた。結果として、どんなイベントをするか、どうやって人を呼ぶかを考えたり、スクリーンの組み立てに汗を流したりと、受け身ではないさまざまな裏方の体験をすることでまとまりが生まれた。

また、いろいろな人とも知り合うことができたので、これらの自分たちの活動に新たな可能性を感じている。

## ■なぜスライドショー

スライドショーは、あんどんまつりのほんわかとした雰囲気合うものをと企画した。他の家族の写真に自分の事を重ね合わせ、家族の絆を再確認し、じんわり心が温かく幸せな気持ちになっていただければと。

カウンタダウンで間違っても火があがるハプニングもあったが、皆さん静かに、しかし真剣に見てくれていた。

## ■イベントを終えて

特に感じているのは情報発信をもっと早くやってあげれば良かったという反省と、人との関わりが自分たちの財産になるという実感。ゆっくりあんどんを見ることができなかつたのが残念でしたが…

(M・O)

# ふるさとまつり 若きボランティアの声

●ジュニアリーダーに誘われて参加しました。前回の軽トラ市にも参加し、抽選会で商品配りのお手伝いをしました。今まででしたことがない体験ができました。特に、裏方の体験は貴重だと思えます。今年のおんどんまつりは新しい企画があって面白かったです。(矢中一年生の女子四人グループ)

●来年から宇都宮での就職が決まり、その企業がスポンサーになっている宇都宮花火大会でボランティアをし、良い経験になりました。今回は、地元矢板を盛り上げたいと思い参加しました。宇都宮の花火大会は完全にボランティアだけで運営、矢板は市の

職員や関係機関の人たちが中心になっています。今年は、今までよりもイベントの質が高いと思えます。(フワフワで整理係をしていた大学生)

●先生から勧められて参加しました。生徒会に入っているので役立つかなと思って。地元のさくら市で、中学生の頃から地域のお祭りなどのお手伝いをしていましたが、このふるさとまつりは自分たちの所より子どもが多いのでビックリ、すごいなと思いました。



●親に勧められました。初めてやったのですが、想像以上にきつかったです。いろいろな子がいるので、スピードなども違うし転んだ子のフォローなど忙しかったです。でも、楽しそうにしているのを見るとやる気ができました。(雪遊びで子ども相手や整理をしていた矢中一年男子五人グループ)



ペットボトルのあんどんに点灯中

## ソーラーカーに乗ったよ

●矢高の機械技術研究部のメンバーは五人、毎年秋田で行われるワールドソーラーパイスクルレース(WSBR)では、七連覇中です。今年は、雨と風で中止になってしまい、八連覇は来年に持ち越しになりました。このイベント

参加は校長先生



が引き受けましたが、喜連川の三菱ふそうのイベントでも同じ事をしているのだから、引率していた顧問の渡辺先生は、「自分たちのやっていることをいろいろな人に伝える良い機会。今の時代、自分の意志を伝える力や人とコミュニケーションを取れることはとても大事。AO入試にも必要な力です。それに、来場した中学生にアピールすることで、ぜひ、我が校に来たいと思ってもらえる子が出てくることも期待しています」

このイベント